

平成27年度第1回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成27年8月31日（月）14：00～16：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、松浦委員、渡辺委員、高田委員、青木委員、斎藤アドバイザー
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 委員の紹介

新委員として、静岡産業大学経営学部の青木教授が紹介された。

IV. 議事内容

今回は、イノベーションに関与できる分野横断型による学修構造について、構想力を培う学びの仕方を修得する初年次教育プログラムの検討をすすめることにした。求められる能力として、観察力、問題発見力、仮説設定力、仮説検証力、知識統合力、予測・創造力、構想を実現するための合理的判断力が考えられる。

26年度の振り返りとして、様々な領域でイノベーションに関与できる産学連携の実践的な学修の仕組みづくりとして、課題発見・問題解決型 PBL 授業充実に初年次教育から主体性を引き出し・伸ばす教育プログラムを提言するために、産業界・地域社会・大学間または教員間と連携した分野横断型のオープン・イノベーションによる学習の仕組みを研究することにして、学びの構造のフレームワークで PDCA の P の構想力育成について議論をすすめたことが整理された。

また、テーマの参考として IoT の動向について、センサー単位でデータがとられており、保存容量の問題からフィルタリングして（データ収集・解析・制御・管理など）データ保存する処理に変化しているが、全てがつながることから付加価値がでてくる流れになっているとの説明があった。

1. PDCA の P 部分の学修フレームワークについて

委員から構想力の学修として、初年次教育及び PBL への導入を兼ねた教育について以下のような提案がされた。

- ・ ゴールをビジネスと考え、ビジネスについて構造、人材などの理解を図る。
- ・ PDCA の必要性とともにプラン（企画）段階の構造を理解させる。
- ・ 進め方としては、対象について観察、目的の把握、価値評価などさせ、要求について目的、仮設、モデル化検証、実証を図って発表を行う。
- ・ グループでの取組みについて、組織、懐疑、議事録、スケジュールについて理解させ、KJ 法・ブレインストーミングなど組織での対応力も図る。
- ・ 構想力を培いイノベーションに関与できるよう、PBL により実対象の課題について問題発見、課題設定、改善案、発表等の流れで実践させる。
- ・ 企業への協力要請として、ビジネス理解の講師、実対象の提供、アドバイスが必要とされる。
- ・ 実対象の例として、製品、アプリ、IoT、流通、ビジネスモデル、セキュリティ、知的財産、起業などが考えられる。
- ・ 企業・大学連携、グループ間の課題としては、担当組織の立ち上げ、Net 会議環境、知財可能提案への権利の扱いなどが考えられる。

2. 委員の意見

- 学びの仕方として、観察、仮設の設定、知識の統合などに関して初年次から身の周りのテーマで考えさせてはどうか。
- 構想力として、予測する力が求められるのではないかと。論理的思考より合理的判断が求められるのではないかと。
- 次の段階として、情報専門の学生がもっている知識や能力を活かし、テーマごとに問題発見・解決に向けた情報収集・チームでの考察・有識者の評価の取組みが考えられないかと。また、学びの多様性として専門別、他大学・企業・自治体との協働が考えられないかと。
- 失敗をしながら成長し、出る杭を伸ばすこと、改善していくことが求められているのではないかと。
- 文化教育が不足しているのではないかと、徒弟制度的な土壌の課題、見た目ではなく背景にあるものが読み取れる人財を育成する必要があるのではないかと。
- ビジネスの捉え方として、大学は原理原則で企業は経済性をセットで考えることから儲け主義でなく経済性を持たせ社会を豊かにするビジネスの概念を理解させる必要があるのではないかと。目的や価値の理解には企業による説明が考えられる。
- 大学と企業の関係について、大学はプランの実証までビジネスに立ち上げるのは企業側の役割であるが、いかに和を構築できるかが大切ではないかと。例えば、若者をターゲットにすることで企業が協力できるメリットを提示できないかと。
- PDCA の DCA は P のための手段とすることを、絵の説明を入れて基本の流れとして整理・ブレイクダウンしてはどうか。
- 初年次の15週をイメージした授業構成例を提示してはどうか。
- 情報専門のレベルで、主体的な学びをつくる授業の仕組みを提示してはどうか。

V. 今後のスケジュール

- 次回の委員会は、10月14日（水）17時30分から開催することにした。
- 初年次教育プログラムとして15週の授業イメージを持ちより検討することにした。また、2・3年次に向けて情報専門教育として主体的な学びをつくる授業の仕組みについても案を持ち寄ることになっている。